

Pickup!① 対馬の歴史を後世へ

9月5日上対馬総合センターで、6日豊玉文化会館で、19日対馬市交流センターで平成27年度シンポジウム事業「博物館をつくる！」が開催されました。美輪嘉六前九州国立博物館館長が「市民と共生する博物館」と題して基調講演を行い、その後のパネルディスカッションでは市民の代表が登壇し、博物館の完成に向けての意見を発表しました。



対馬オリンピック開催

Pickup!②

9月6日、第61回対馬島民体育大会（球技・武道）が開催されました。各競技とも11月に行われる長崎県民体育大会の出場権をかけて、熱い戦いが繰り広げられました。

※1位のみ掲載・敬称略

競 技	部 門	優勝者(町) 名	競 技	部 門	優勝者(町) 名
軟式野球		上県町	卓 球	団体	上対馬町
バレーボール	男子	美津島町	個人 一般男子		福島 卓郎（上対馬町）
	女子	豊玉町	壮年男子		宇藤 国英（厳原町）
バスケットボール	男子	美津島町	ベテラン男子		平山 康博（峰町）
	女子	美津島町	一般女子		白石 文恵（上対馬町）
テニス	男子	上対馬町	剣 道	団体	厳原町
	女子	厳原町	個人 24歳以下		堀之内 琢磨（厳原町）
ソフトテニス	団体	上県・上対馬連合	34歳以下		池内 俊夫（厳原町）
ソフトボール	一般F P	上県町	44歳以下		西野 博文（厳原町）
	壮年S P	厳原町	54歳以下		平山 善行（峰町）
	実年S P	上対馬町	55歳以上		宮原三男（上県町）
バドミントン	男子	美津島町	弓 道	団体	厳原A
	女子	厳原町	個人 男子		熊本 厚美（厳原A）
ゲートボール		上県町B	女子		廣島 藍子（美津島町）
グラウンドゴルフ	男子	上対馬町	ボウリング	団体	美津島町
	女子	美津島町			
	総合	上対馬町			



対高生のアイデアで 名物スイーツを開発

～学校・地域・行政の協働による

対馬新商品開発プロジェクト始動～

「白嶽」といえば、

九州百名山にも選ばれている対馬の霊峰。

そしてその伏流水で仕込んだ対馬唯一の地酒の銘柄ですが、その両方を商品づくりに取り入れた

全く新しいスイーツが完成。販売が始まりました。

そのプロデュースは対馬高校商業経済部の生徒たち。

そして彼らの商品開発をサポートしたのは、

地元企業やまちおこしグループ・大学・

長崎県対馬振興局・対馬市役所などの公的機関。

彼らにとって、地域を巻き込んだこの活動は、

単に商品の企画を提案するだけでなく、

接客サービス・販売戦略などビジネスの基本を学ぶ機会に、

そして「地域協働」を実践する場になりました。

白嶽スイーツをめぐる「あれやこれや」を紹介します。

写真「白嶽sweet」

対馬新商品開発プロジェクト

新商品の企画・販売体験
フリーペーパーなどによる
対馬の魅力発信など

対馬高校

県・市・商工会
女性グループ
福岡女子大学・長崎県立大学
島おこし協働隊・MIT

プロジェクトのプロデュース
や販売協力・商品のブランド
化に関する指導・品質表示・地
元産品の発掘などで対馬高校
をサポート

対馬高校調理室で何度も試作を重ねていた生徒たち。スイーツの他にも対馬ヒノキの香り袋・とんちゃん焼きそば・はちみつリップ等々高校生のアイデアによる試作品が生まれていました。



対馬新商品開発プロジェクトとは…

地域課題にきめ細やかに対応し、交流人口拡大を推進し、島内の産業振興や雇用拡大を図るため、長崎県対馬振興局が主体となり進めているオーダーメイド型振興策である「対馬振興局プロジェクト」の一つ。地域資源を活用した新商品開発を通じて、将来の起業家の輩出・雇用機会の創出・地域経済の活性化を目指しています。

対馬高校の生徒たちが発案した新商品について、審査会を開催。高い評価を得た「白嶽sweet」と「白嶽ムース」を、公募による地元業者2社が製造販売を担当。審査の段階から、地元企業・地域おこしグループ・大学・行政機関が参加し協働で取り組んでいます。



昨年の審査会の様子。生徒たちが考案した作品の中から8品に選ばれ行われました。

トップの白せんを使ったクレープ「つしまぶくれ」は実演販売商品として採用され、店舗販売向けには高評価を得た「白嶽ムース」と「白嶽sweet」が公募商品に決定しました。

販売店舗に聞く

「papan」 上原 正行さん

個人的に20年以上にわたり対馬の児童や生徒に商品開発の出前授業を行っていました。地域経済の発展には起業家育成が必須です。商品開発プロジェクトが組織的に教育現場で始まったことを嬉しく思います。対馬高校の白嶽スイーツは消費者からの関心も高まっていますよ！このような取り組みが対馬高校の魅力UPにもつながるはずです。

「山田松月堂」 山田 明代さん

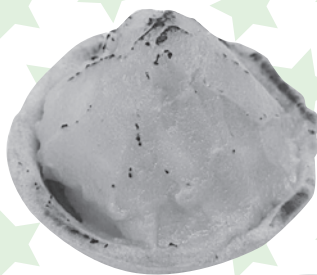
生徒さんの商品開発に興味があり、審査会に出席しました。

生徒さんの「対馬！対馬！」という情熱と、私自身の対馬への思いが重なり協力したいと思いました。島山産ブルーベリーを始め、あんずやももなどを使ったオリジナルソースも加わり消費者の反応も上々です。ここでの販売実績により改良点を見つけたりと学びの場になればと期待しています。

生徒たちの思いが詰まった 2つの白嶽スイーツを紹介します。

白嶽sweet

対馬の名峰白嶽をイメージ。対馬の孝行芋（サツマイモ）からとれる郷土素材「白せん」をタルト生地に入れ、孝行芋のスイートポテトの中に、サプライズの大学芋が入っています。



白嶽ムース

対馬産のフルーツソースと銘酒「白嶽」を使ったムースが特徴。ムースの中にはアクセントのホワイトチョコが入っていて独特の食感も魅力です。

・長崎でノウハウを学ぶ!!

対馬新商品開発プロジェクトでは、長崎県美術館開館10周年記念企画として、美術館のカフェメニュー（7月25日～8月31日）として提供。博多阪急では「第4回うまちか! 甲子園」（8月22日～23日）に初出場。続く長崎浜屋で開催された「第23回秋の県産品まつり」（9月12日～13日限定）にも出展しました。話を聞きつけ、駆けつけてくれた対馬出身者も多く、生徒たちを励ましてくれました。

企画の仕掛け人である、長崎県対馬振興局地域づくり推進課の楠本雅一さんは、呼び込みや販売手法の工夫など、生徒たちの努力する姿を見て「短時間でここまで変わるものかと感動しました。今後も、大学や大企業との連携で島内では得られない情報発信力や企画力・接客などを学び、島外の高校に進学しなくても、遜色ないキャリア教育を提供していきたい」また「参加した生徒の中から将来、対馬で起業する人や都市圏でベンチャーを立ち上げる人が現れることを期待します」と話しています。



● 博多阪急では2日間で500個を完売!



● うまちか! 甲子園には九州で商品開発を行う22校が、地域の魅力を活かした傑作商品を抱えて集結/素材やコンセプト・パッケージ・接客等で競い合う刺激的な2日間を過ごしました。開会式では豊田さんが堂々の選手宣誓!!

高校生でも対馬活性化の一役を担える
商業科3年 豊田 舞香さん
(仁田中学校出身)

初めての出展で選手宣誓をさせていただきました。対馬高校をアピールできて嬉しかったです。私は、将来お菓子の販売員になりたいと思っているので、今回は本当にありがたい経験になりました。接客のノウハウなどを学び、就職活動にも活かせると感じました。一番緊張感を味わったのはやはりお金を扱う時でしたね。

私は、スイートポテトのリーダーを任されました。対馬の産品がまだまだ島外に発信されていないと感じ、独自の商品を作りたいとの思いを込めました。皆さんの力をお借りして高校生でも対馬活性化の一役を担えるという手ごたえを感じています。フリーペーパーや新しい商品開発も含め、このプロジェクトを託す後輩たちに、これからも対馬を盛り上げていってほしいです。私自身も、島内外の方にもっと対馬を知って愛してもらえるように頑張っていきます。



対馬の経済が潤う仕掛けを考えたい
商業科3年 濱崎 裕希くん
(雞知中学校出身)

白嶽をモチーフに、自分が食べて「美味しい」と感じるものを提供したいと、何度も試食しては改良を繰り返しました。島外での販売は不安がありましたが、周りの皆さんや先生方の協力に感謝し、自分ができることは精一杯やるという気持ちで臨みました。上手に商品を渡せなかったり、呼び込みがうまくいかなかったりと商売の難しさも痛感。そんな中、小さな子どもさんが白嶽ムースを食べて笑顔になってくれたことが嬉しくて、前向きになれました。

もともと人見知りで、誰かにうまく気持ちを伝えることが苦手でしたが、今では多くの人と接する仕事に就きたいと思えるまでになりました。一度は都会に出るつもりです。以前はその憧れだけでしたが、この企画に関わり「対馬の経済が潤う仕掛けを考えたい!」という気持ちが芽生えています。いつか対馬で起業する日を夢見ています。

起業家への第一歩! 福岡



人と関わる力を身に着けてほしい
前田 玲子先生

(対馬高校商業科教諭・商業経済部顧問)

長崎県や対馬市、商工会など様々な機関のご支援により、このような機会を生徒にいただき本当に感謝しています。商業経済部は、商業教育を地域活性化にどれだけ活かせるかを発表することを目的にしています。商業科のみならず、普通科や国際交流コースの生徒もメンバーです。企画は得意ですがレシピづくりには苦労していました。

生徒たちには、人と関わる力を身に着けてほしいと願います。おそらく、生徒たちはこの部に入ってこんなにも多くの方々と関わるとは思っていなかったはずです。この経験がどんどん生徒たちを変えていきました。早速、今月からは次の商品開発がスタートします。将来は行政の協力をいただかなくても、この部活動で地域活性化に貢献できるように自立させたいと思っています。

長崎県のインターンシップ制度を利用し、生徒自身がカフェの接客(3日間)を体験することもできました。



長崎水辺の森公園にある長崎県美術館では、カフェメニューとして単品やドリンクとのセットメニューで提供されました。



長崎浜屋

部活動の一環で発行している情報誌「つしまんぶく」も配布し、対馬の魅力を発信しました!



博多阪急の定番イベントとあって、マスコミの関心も高く、生徒たちにも取材が殺到。



お客様とのふれあいが生徒たちの積極性を高めていきました。

● 長崎県各地の特産品が集うイベントでは、プロの実演販売や接客に触れ、大いに参考になったようです。商品は数時間で完売する盛況ぶり。

人口流出・少子化による人口減少は、公立高校の運営にも影響が懸念されます。対馬新商品開発プロジェクトは、キャリア教育や職業体験・大学との連携など高校の魅力向上、さらに対馬での雇用創出を目指しています。

また「商品開発」と言っても、原価計算・パッケージデザイン・価格設定・販路開拓、接客など、店頭に並ぶまでには様々なプロセスが必要です。

今回の商品開発の過程で、多くのプロフェッショナルの技に触れ、実際に売り場に立ち、お客さまの声を聞いた高校生たちが、対馬の「モノづくり」のけん引役として活躍することが期待されています。